

令和6年2月13日

## 南の風 OQT（オリンピック女子最終予選）特集号Ⅱ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

この特集号ⅡからはOQTの1～3戦を振り返り、そのあと恩塚ヘッドコーチのOQTに臨む戦略・戦術理念やチームコンセプトに触れてみたいと思います。

まず一戦目のスペイン戦です。映像でご覧になった方も多いと思いますので、ダイジェスト風に書きます。立ち上がりスペインはアグレッシブに1on1を仕掛けてきます。日本は怯むことなく足を使ったディフェンスで立ち向かい、思い切りのよい林選手の2本の3Pシュートが決まりリードします。この2本の3Pシュートが日本にエネルギーを与え、このゲームにより流れを持ってきます。

1Qは26-18で日本がリードします。

2Qはスペインにランを作られ、連続10得点を奪われ33-30と詰められます。しかし日本は、追いつけられなくても慌てることなく、再び林選手が3連続3Pシュートを決め、10点差をつけて前半を終えました。46-36で日本がリードします。

後半に入っても流れは大きく変わらず、スペインにインサイドで得点されながらも、高田、山本選手が要所で3Pシュートを沈めてリードは譲りません。さらにエブリン選手が、ペイントで3点プレーを成功させ、チームを盛り立てます。3Q終了時69-57で日本がリードを保ちます。

迎えた4Q、序盤に林、高田選手が続げ様に3Pシュートを沈め、点差を広げにかかります。終盤は時間を使いながら、山本選手が3Pシュートを決めるなど一切の油断を見せず、スペインに追いつかせることなくタイムアップを迎えます。最終スコア86-75で勝利します。日本はバリ五輪出場に向けて幸先のよい大きな1勝を手に入れます。

日本はこのゲーム、林選手が6本の3Pシュートを含む20得点、エブリン選手も20得点をマークし、山本選手が15得点で続きました。チームとしては、3Pシュート成功率37.5%（15/40）を記録しました。

続く第2戦は開催国ハンガリーとの対戦です。赤穂選手の先制レイアップから始まりました。さらに高田選手の3Pシュート、林、赤穂選手のシュートと続き、9-0のランを作ります。そして、高田選手がこの日2本目の3Pシュートを決めて、残り6分半で12-2とリードします。

一方のハンガリーは、208cmのハタール選手のゴール下とリバウンドからの得点で徐々に点差を詰めてきます。時間経過とともにオフェンスが停滞気味の日本は、川井選手のレイアップのみになります。3点差までに迫られますが、終了間際にステファニー選手が3Pプレーを決めるなどして、22-13で1Qが終了します。

2Qは互いにディフェンスが目立つ展開となり、得点が動きません。残り7分強から林選手が2本の3Pシュートを成功させ、さらに宮崎選手のレイアップも決まり残り5分で30-18とします。

プレッシャーディフェンスで時間を削っていく日本ですが、ハンガリーのハタール選手（208cm）の高さに苦しみ、地元ファンの大声援もあり、試合の流れがハンガリーに傾きます。32-32の同点で前半が終了します。日本の3Pシュート（4/16）確率25%、リバウンドでは15-25と差を付けられてしまいました。次号ではハンガリー戦の後半戦の様様を書きます。